

日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌

The Journal of the Japanese Association of Health Communication

投稿規定

1. 投稿者の資格

本学会雑誌に投稿できる対象者は、編集委員会が認めた招待執筆者を除き、また学術集会での発表の有無に限らず本人の自由意思によって投稿し、査読時のアドバイスを反映させる意思をもち、加えて責任をもって締め切りの期限を遵守できる者とする。

2. 投稿の内容・種類

2. 1 投稿内容

投稿原稿は、ヘルスコミュニケーション研究に寄与する研究内容に準拠したものとし、使用言語は日本語、または英語とする（→3. 1を参照）。

2. 2 種類

投稿原稿のカテゴリーは以下に掲げるものとし、すべて査読を受けるものとする。「原著論文」はヘルスコミュニケーション分野における新しい研究・開発の成果の記述で、研究の対象、方法、結果に独自性、創造性があり、かつ明確で価値のある研究や事実を含むものをさす。「研究資料」以下は、それ以外の実践報告、レビュー、技術報告など、論文のカテゴリーとは峻別されるものをさす。なお、論文として投稿されたものが、査読を経て他へのカテゴリー替えを指示すること（場合によってはその逆）があり、かつ投稿者の了承の下で、文言等を書き換えた上で、掲載されることもある。

論文の種別は、下記とする。

(1) 原著論文

原則として、問題提起と実験、調査、事例などに基づく研究成果で、理論的考察と明確な結論をそなえた研究。掲載時 10 ページ以内。

(2) 研究資料

新たな実験装置や解析プログラムの開発、新たなヘルスコミュニケーションに関する測定尺度の作成やデータベースの構築など、研究の遂行に有用な新たな方法、技術およびデータに関する報告。掲載時 10 ページ以内。

(3) 研究報告

すでに公刊された研究成果に対する追加、吟味、新事実の発見、興味ある観察、少数の事例についての報告、速報性を重視した報告、萌芽的発想に立つ報告。掲載時 6 ページ以内。

(4) 総説

ヘルスコミュニケーション学の最近の重要テーマについて、研究状況、主要成果、問題点等を解説し、研究の意義と今後の課題を論じる。掲載時 20 ページ以内。

(5) レター

手紙形式の記事。「編集者への照会」に加え、「編集者や著者からの返答」を含む。掲載時2ページ以内。

(6) 書評

ヘルスコミュニケーション学に関する書籍の批評・解説。掲載時6ページ以内。

(7) 書籍紹介

ヘルスコミュニケーション学に関する書籍の著者による紹介。掲載時6ページ以内。

(8) その他

上記(1)-(7)に当てはまらない論文で、編集委員会において、掲載が適当と認めた論文。掲載時10ページ以内。

3. 投稿原稿の作成と提出

3. 1 使用言語

投稿原稿は日本語、または英語とする。英語の場合は、かならず投稿前に、投稿者以外のプルーフ・リーダーの校閲を受けているものとする。編集委員会は査読者（4. を参照）からの照会により執筆者に対して査読過程においてプルーフ・リーダーに照会することもあるので、その際にはプルーフ・リーダーに対して事前の確認をとっておくこと。投稿時には、プルーフ・リーダーの連絡先（電子メール等）を記載しておくこと。

3. 2 原稿の様式

原稿の様式は、コミュニケーションおよび健康科学に関連する各学会の論文投稿書式に配慮しつつ、原則としてアメリカ心理学会（American Psychological Association, APA）、または『医学雑誌ガイドライン』（2015）の書式に準拠する。

原稿には、以下の内容を含むものとする。

1. タイトル（日・英）、2. 著者の氏名と所属（日・英）、3. 著者注（e-mail などの照会先）、4. アブストラクト（英語）、5. キーワード（英語）、6. 本文（序文、方法、結果、考察、リファレンス、注、利益相反の記載、等だが、投稿者が所属する学協会の様式によって適宜取捨選択をおこなってよい）。それ以外の項目の記載は任意で追加してもよい。

原稿執筆のガイドラインや考え方については、上掲APA のマニュアル、または『医学雑誌編集ガイドライン』（2015）を適宜参照すること。

準拠文献

-アメリカ心理学会(2010)『APA 論文作成マニュアル』前田樹海ほか訳、東京：医学書院。
-*Publication Manual of the American Psychological Association, Seventh Edition* (2020)

Retrieved from <https://apastyle.apa.org/products/publication-manual-7th-edition/>

-日本医学雑誌編集者会議編(2015)『医学雑誌編集ガイドライン』東京：日本医学会。
Retrieved from http://jams.med.or.jp/guideline/jamje_201503.pdf

3. 3 投稿日と受理日

原稿が投稿された日付を投稿日とする。査読が完全に終了し、編集委員会が原稿の掲載を決定した日付を受理日とする。論文ならびに研究ノートの末尾には、投稿日と受理日の日付が付される。

3. 4 研究（出版）倫理

日本ヘルスコミュニケーション学会編集委員会では、研究倫理上の問題が生じた場合、COPE（Communication on Publication Ethics）のガイドラインに従って対応する。投稿原稿の内容は、原則として他の書籍や雑誌において未発表でかつ査読中でないものとする。二重投稿の判断基準としては、オーバーラップの程度がマイナーかメジャーかに関して、編集委員長、編集委員および査読者等が合議で判断する。研究目的や分析方法が異なっている必要があるものの、同一データセットの再利用だけでは二重投稿とはみなさない。ただし、同一データセットを用いていることを当該論文に明示する必要がある。データの公表にあたっては、先出の論文で明示されたものは、後出の論文では適切に引用することが求められる。

4. 査読手続き

4. 1 査読対象

投稿されたすべての原稿は、編集委員会が指名した査読者によるブラインド・レビューによる査読を受けるものとする。

4. 2 査読者の選出

査読された原稿に関して、編集委員会が2名の査読者を選出し、別途定める査読要領にしたがって査読を行う。

4. 3 投稿原稿の採否

査読の結果に基づいて編集委員会が決定し、投稿者に通知する。査読の評価が分かれた際には、編集委員会により、再査読の有無およびリジェクトを決定するものとする。

4. 4 原稿の修正

査読は、2回（再査読）までとする。査読照会事項について、原稿の修正をおこなう場合は、旧原稿と査読所見に対する回答書を添えて、編集委員会が指定した期間内に書類一式を再提出する。

5. 著者校正

著者校正は1回とし、再校以降は編集委員会が担当する。ただし著者が表現を含む内容を改変したり、正確な校正を怠ったりした場合は、編集委員会の決定により採用を取り消すことがある。

6. 媒体

『日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌』は、UMIN（大学病院医療情報ネットワーク研究センター）を利用したオンライン・ジャーナルの形式で公開されることを原則とする。

7. 著作権

本誌に掲載された内容については、投稿者に著作権があるものとする。ただし、本誌は6.のオンライン情報として公開されるために、著者はこれについての著作権上の複製権および公共送信権を日本ヘルスコミュニケーション学会に対し許諾することとする。これに承諾できない場合は、投稿できない。また、投稿において、著作権の有する写真、図版、資料を引用する場合は、投稿者の責任で許可をとっておくこと。

8. 掲載の取り消し

第三者からの指摘により、掲載論文の作成過程ならびに事後的な措置において重大な研究上の不正、二重出版、剽窃等が発見された場合は、学会の判断により論文・研究ノート of 公開を中止したり、登録を抹消したりすることがある。なお、この規定は、施行時期よりも以前の論文等にも適用されるものとする。

附則

- 1) この規定は、2018年10月18日より施行する。
- 2) この規定は、2020年2月1日より施行する。